

あ み だ じ
阿弥陀寺
だより

2022年 3月 1日 第52号

金剛山 阿弥陀寺

発行人 大谷 義文

〒861-2235 熊本県 上益城郡 益城町 福富 916

☎ (096) 289-0424 ㊚ (096) 297-9161

✉ amidaji@jcom.zaq.ne.jp

ホームページ [金剛山 阿弥陀寺](#) [検索](#)

郵便振替:01710-8-68921 加入者名:阿弥陀寺事務所

大悲に生きる人とあう
願いに生きる人となる



新たな地に新設された市民病院

阿弥陀寺建立

10周年+2 記念法要

9月10日(土) 正午 勤修

友よ

大谷 義文

1月16日、突然、友人がこの世を去った。46歳。出会いは、彼が小学生の頃。親に頼れる環境ではなく、私が住み込んでいたお寺にしょっちゅう遊びに来ては夕食を食べ泊まっていた。そのためお酒を覚えるのも早かったがお経も早かった。中学を卒業すると、昼はお寺でお参りをして夜は工業高校で学んだ。あるお盆参り、彼はお菓子を山ほど抱えて帰って来た。聞くと、どの門徒さんも「お寺の坊ちゃんかね」とたずねられるので、めんどろになり「はい」と答えていたらこうなったという。しかもポケットにはお小遣いが。就職後も、休日はお参りの手伝いをしていた。毎夏、お寺に集う子どもたちを1泊のキャンプに連れて行くのが楽しみで、春になるとそわそわ

と計画を始めていた。数年前から県外で仕事をしている彼は、施設にいる母を見舞いに時々帰って来た。その母が、昨年12月亡くなり、彼と彼の弟と私と3人で見送ったばかりだ。「年末年始は顔を出せないな」と帰って行った彼が30日にやって来た。私の娘に就職祝いを渡すというのだ。それは、とてもきれいなデザインの傘だった。店頭で一生懸命に選んでいる彼の姿が浮かぶ。その晩、久々にふたりで焼酎を飲んだ。「そろそろ帰って来いよ」と言うのと、いままで頑なに拒否していた彼は「そう思っているんだ」と言った。私は、それ以上聞かなかったがうれしかった。そんな彼が、いったい何処へ行ったのだらう。まったく寂しいことだ、悲しいことだ。



佐土原本店

熊本市東区佐土原1-12-1(佐土原バス停前)

電話 **096-360-8488**

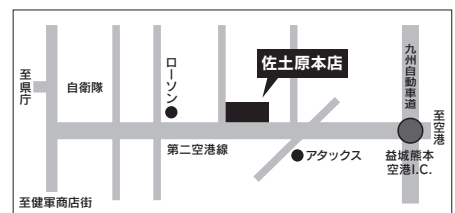
営業時間

昼/11:00~15:30(オーダーストップ15:00)

夜/17:00~21:30(オーダーストップ21:00)

定休日/毎週火曜日(祝日の場合翌日振替)

7・8月、12・1月は不定休



<http://www.kawasen.jp/>

再会の戀を灯せり

報恩講 勤修 (親鸞聖人御命日)

沈丁花

唐草サ行 (大木 歌子) 楓組



法話 大谷義文



「善信聖人親鸞伝繪」「御消息集」



「尊号真像銘文」「観無量寿経註」

1月9日(日)報恩講が勤まりました。座敷に『御消息集』『観無量寿経註』『尊号真像銘文』『善信聖人親鸞傳繪』(レプリカ)を展示いたしました。親鸞聖人の念仏に向かう熱意と凡夫救済の真摯なお姿が伝わってきました。法話は左記の讀題。世の中には、就活、婚活、妊活等々様々な「活」があります。その「活」は自分の都合だけで、未来につなぐことに気を配れない私の姿と気づかれます。「終活」とは何かを皆さまと共に考えました。

かなしきかなやこの頃の和国の道俗みなともにして 仏教の威儀をもととして 天地の鬼神を尊敬す(悲歎述懐和讃)

二月六日、三回目のワクチンを一月に終え万全の体制で、菊池文化会館で行われる、夏井いつき先生の句会ライブに仲間十人と参戦。仕事柄、自粛した仲間もいてそれでも熱く俳句を語る先生の指導のもと四百人参加。

五分で一句のお題は「まさかと思ったこと」そんな突然のテーマで自分のまさかを五七五に。再会の戀を灯せり 沈丁花 思わぬ場所にて初恋の人に遭遇したことを詠みました。



夏井いつき氏(左上)と筆者(右前)

オフビート off・beat
総代のつぶやき 40
皆さん こんばんは。総代の森雄です。社会保険労務士をしています。ジャズに熱狂した、青春時代を回想したいと思います。ご自身の思い出をお聞かせください。

さて、今回ご紹介のジャズナンバーは、現在放送中の連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」から聞こえてくる曲です。登場する、「るい」ことサッチモちゃん。夫のジョーは、元ジャズトランペッター。あの偉大なルイ・アームストロングの「オンザ・サニーサイド・オブザ・ストリート」を得意として演奏していました。

熊本地震から6年目を迎えようとしています。先日、震度4の地震がありました。家族と肩を寄せ合っていた車中泊、心配して訪ねてきた友人、久しぶりに入ったお風呂の温かさ。一生忘れられない経験をしたと思っていました。あの地震を過去のものにしていったのだ、と感じました。

安田登先生が寺子屋で『ありがたい』という気持ちには長続きしない。それは『当たり前』になっ

て『もっと』に変わる」と話されていました。日常に戻れたことがありがたいはずなのに、それに慣れたら、不平不満があらわれ出します。それはいのちも同じではないでしょうか。子どもを授かった無条件の喜びは日常の中で薄れていき、「もっとできるはずだ」と期待をかけてしまいます。そして私自身にも、いま生かされているありがたさを忘れて、「もっと豊かに、もっと幸せに」と求め続けてしまいます。久しぶりの地震に、いまの私のあり方を問われたのでした。

成人部
漢字/臨書/かな/ペン/くらしの書(実用書道)
生徒部
幼児・小中学生
各学年(毛筆・硬筆)

阿弥陀寺 様でのお葬式
ファミリープラン(家族・親族の安心プラン) 33万円より 税込み
他のプランもございます。以下の内容が含まれます。
御棺一式 納骨一式 霊柩搬送 ドライアイス 遺影写真 生花祭壇
含まれないもの・・・返礼品、食事、火葬料金
1日葬プランもあります。19.8万円(税込み)より

想いを込めた送り方
想送の木山葬儀社
お問い合わせは！(24時間)
益城町宮園547-3 096-286-4640
携帯 080-5214-4640
メール info@kiyamasougi.jp

生書道教室
指導者 生 春翠・勝弘
〒862-0910 熊本市東区健軍本町6-10 電話 096-369-1138

『龍泉一浴中日記』 第5回

香水が誕生したのは、10世紀頃といわれている。用途の歴史には、男性たちを虜にした絶世の美女、クレオパトラが香水を身につける習慣を生んだという例。また、入浴を習慣としない貴族の体臭を緩和させるために、王のルイ14世が用いるようになった例などがある。

『肥後山中隠栗毛』 第16回

節分が近づいた頃、熊本には変わった豆まきをするお寺があると聞きました。熊本市にある真言宗の寺院です。一般的な豆まきのかげ声は「福はうち、鬼はそと」ですが、そのお寺では「福はうち、鬼もうち」と言うそうです。鬼はそれを聞くと、悪い心が消

現代でも、相手に好印象を持つため、外出時のアイテムというイメージが強いことから、これまでの歴史が頷ける。そんな香水が、昨年頃から需要が高まっているという。その背景には、コロナ禍において、在宅ワークが多くなり、自分の気分を向上するためという会社員。また、切迫した現場を離れた休日、気を落ち着けるためとい

えてやさしい「福鬼」へと変身するといわれています。また、福鬼に体をさわられると、一年間の厄を落としてもらえるという伝承もあります。私は地域独特の風習を聞いて驚くばかりでした。後日、そのお寺のホームページを拝見し、そこには鬼を怖がらずに寄り添う子どもたちの姿がありました。私はそれを見

『御修行奮闘記』 第37回

熊本地震から6年目を迎えようとしています。先日、震度4の地震がありました。家族と肩を寄せ合っていた車中泊、心配して訪ねてきた友人、久しぶりに入ったお風呂の温かさ。一生忘れられない経験をしたと思っていました。あの地震を過去のものにしていったのだ、と感じました。

春彼岸会法要

日時・3月19日(土)

午後1時30分から読経、法話

午後4時終了

法話・大谷義文 栃原真人 川村智明

※お参りは、ご無理なさらさらずお願い申し上げます。

寺子屋

日時・6月5日(日)

午後2時から午後4時終了

講師・安田登 師(能楽師)

大島淑夫 師(精神科医)

講題・「精神科医と能楽師と読む『勝鬘経』」

※懇親会はございません。12月の寺子屋は24日(土)に変更。

お盆参りのお知らせ

7月、8月、お盆参りを予定されている方は、日時、場所が決まりましたらご連絡をお願いいたします。

また、葬儀、法事、納骨、永代供養等のご相談、また遺品、人形等の供養がありましたら対応いたします。

お困りのことがあれば、お気軽に連絡をしてください。

図書紹介



『古典を読んだら、悩みが消えた。』

安田 登 著

発行所 大和書房

定価 1500円＋税

「明日、あの人に会うの、イヤだなあ」という不安、「老後、ひとりで

猫伏石の声

昨年末に餅つきをしました。コロナ禍で皆さまに声をかけられず、いつものメンバーで、体力に不安を感じつつ始めました。

予想通り、もち米を蒸す火力は強くあるものの、つきあげる人力が不足しているのです。

ところがそこへ思わぬ救世主。友人の娘婿さん、20代。自衛隊員。餅つきは初めてだが、杭を打ち



込む訓練をしているとのこと。持続可能な体力に参加者から大きな拍手が起りました。

※阿弥陀寺で販売しています。

寂しくないだろうか」という心配。上司に怒鳴られるだけでパニックになりそうになる恐怖心。多くの現代人が苦しめられている心の重圧は、はるか昔には存在していませんでした。(中略)あらゆる古典は心の副作用の処方箋です。古典を読み込み、副作用への対処さえできれば、私たちは苦しみによって未来を変えることができるのです。

葬儀・祭壇

熊本県儀式共済株式会社

ハタオ葬儀社

ハタオ葬儀社

豊住葬祭

水前寺斎場

しみず会館

豊住葬祭斎場

熊本市中央区国府1丁目12-3
TEL.096-364-3220

熊本市北区清水新地7丁目4-27
TEL.096-342-5657

熊本市中央区河原町23
TEL.096-324-4848